

**令和8年度 第1回 那珂市総合計画策定委員会
議事録**

■ 概要

開催日時	2026年（令和8年）6月16日（火）13:30～15:30
開催場所	那珂市中央公民館2階 講座室
出席者	委員32名（玉川明委員長、戸祭守男委員、寺門喜勝委員、根本泰之委員、里口邦夫委員、勝山信茂委員、先崎武委員、綿引桂太委員、中庭大輔委員、横内邦昭委員、山田日出美委員、後藤京子委員、小森友子委員、小豆畑いずみ委員、海野寿江委員、平野由起子委員、山下照雄委員、瀧本京子委員、大須賀碧委員、小島誉央委員、武田京委員、森田一平委員、浜名哲士委員、石井宇史委員、柴田真一委員、山田明委員、金田尚樹委員、黒川耕二委員、秋山洋一委員、川崎慶樹委員、大曾根香澄委員、柏村孝博委員） 事務局4名（加藤裕一企画部長、政策企画課：生田目恵司課長補佐（総括）、小関一生課長補佐、櫛田亮太主幹） ㈱常陽産業研究所2名（杉田健次長、廣田善文主任調査役）
欠席者	野上隆男委員、海野孝一委員
会議次第	1. 開会 ＜先崎市長挨拶＞ 2. 委員長あいさつ 【委員紹介】 3. 委員及び事務局職員挨拶 4. 那珂市総合計画策定委員会の会議の公開等に関する取決め事項及び那珂市総合計画策定委員会設置規則について 【資料1】【資料2】 5. 協議事項 （1）副委員長の指名について （2）総合計画の概要について【資料3】 （3）第3次那珂市総合計画策定方針及び策定スケジュールについて 【資料4】 （4）市の現状について（各種アンケートの結果より） 【資料5-1～5-4】 （5）基本構想の策定にあたって【資料6】 6. その他 7. 閉会

■ 議事内容

1. 開会

○ 事務局（生田目総括）

・定刻となりましたので、ただいまより「令和8年度 第1回 那珂市総合計画策定委員会」を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本来であれば、会議の開催前に委員の皆様お一人お一人に市長より委嘱状を手渡しする予定でしたが、本日は協議事項も多く時間を要する都合上、あらかじめ皆様のお席に置かせていただきました。大変申し訳ございませんが、ご了承くださいようお願い申し上げます。それでは、ここで先崎市長よりご挨拶申し上げます。

○ 先崎市長

・皆さんこんにちは。那珂市長の先崎光でございます。日頃より市政に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、この度は総合計画策定委員会の委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。本来であれば直接委嘱状をお渡しすべきところ、席上に置かせていただいた点について、ご了解いただきたいと思います。

・さて、総合計画は目標とする市の将来像を実現するために、まちづくりの基本理念や施策を体系的に示したものです。これまで第2次那珂市総合計画に基づき、各種施策を実施してまいりました。この計画は令和9年度末で計画期間が終了いたします。そこで、次期計画の策定委員会を設置し、本日ご参加の皆様には計画策定の労を担っていただきたく、委員をお願いすることとなった次第です。

・つい先日、昨年実施された国勢調査による人口速報が出ました。茨城県全体のトレンドもありますが、本市においても前回（5年前）の調査に比べて2,000人弱の人口減少となっております。5年間で2,000人弱の減少です。さらには、前回基本構想を策定した際には想像もしなかったAIの時代を迎えています。このような社会変革の時代においても、まちづくりはあくまで人と人のつながりがベースであると考えております。

・那珂市には今、大きな追い風が吹いています。昨年の秋に茨城県植物園がリニューアルオープンし、大変好評をいただいております。そして8月からは、笠松運動公園が水戸ホーリーホックのホームスタジアムになります。笠松運動公園の陸上競技場は那珂市にありますので、様々なメディアで那珂市の名前が出てくるようになります。さらに2年後には常磐道沿線に道の駅が整備される予定です。これら3つが、那珂市にとって非常に大きなチャンスであると考えております。このチャンスに果敢に挑戦し、これまでの住み良さはもちろん、産業の活性化で雇用を生み出し、経済を回して、そこで生まれる活力を市内全体に循環させ、市民の皆様に還元していきたいと考えております。

・委員の皆様におかれましては、ぜひとも「市民目線」という観点から、那珂市に住んでよかった、住み続けたいと思えることに加え、活力にあふれたまちづくりにつながる計画となるよう、策定に参画いただきたいと思います。どうしてもこういう計画には専門用語が

出たり、普段使わない言葉を耳にしたりします。どうぞ気にしないで、市民感覚で思ったことをご意見として述べていただければ幸いです。結びになりますが、委員の皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○ 事務局（生田目総括）

・ありがとうございました。なお、市長におかれましては公務の都合により、ここで退席となります。

2. 委員長挨拶

○ 事務局（生田目総括）

・それでは会議に移りたいと思います。本日の進行を務めさせていただきます、企画部政策企画課の生田目と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

・はじめに会議の成立についてご報告いたします。この会議は「那珂市総合計画策定委員会設置規則」第5条第2項により、委員の過半数の出席がなければ開催できないこととなっております。委員34名のうち、本日出席の委員は31名（※1名途中から出席したため、最終的には32名）となっております。よって、この会議は成立したことをご報告いたします。

・それでは、ただいまより「令和8年度 第1回 那珂市総合計画策定委員会」を開催いたします。本日本配りしております次第に沿って進めてまいります。なお、委員長でございますが、設置規則第3条第2項の規定により副市長が委員長となります。それでは、委員長よりご挨拶をお願いいたします。

○ 玉川副市長

・改めまして、こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。先ほど市長からも話があった通り、令和10年度から第3次の総合計画が始まります。この委員会は、その策定に向けて地域の代表の方々からご意見をいただくこととなっております。この2年間、皆様とともにしっかりと進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。那珂市の将来をどのように描いていくか、実りのある計画にしていきたいと思いますので、どうぞ遠慮のないご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員及び事務局職員紹介

○ 事務局（生田目総括）

・ありがとうございました。続きまして次第3「委員及び事務局職員紹介」ですが、本日は第1回目の会議でございますので、紹介をさせていただきます。まず、委員のご紹介につ

きましては、お手元にお配りしております名簿に沿って、自己紹介をお願いいたします。恐れ入りますが、名簿の1番の野上隆男委員、4番の海野孝一委員は本日欠席でございますので、2番の戸祭委員から順をお願いいたします。

<名簿順に委員32名が挨拶を行った。>

○ 事務局（生田目総括）

・ありがとうございました。続きまして、事務局職員をご紹介します。

<加藤企画部長、小関政策企画課課長補佐、櫛田政策企画課主幹が挨拶を行った。>

○ 事務局（生田目総括）

・最後に私、政策企画課課長補佐（総括）の生田目でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

・また、本日は、今回の第3次那珂市総合計画の策定業務全般を支援いただくコンサルタント会社から、2名が出席しておりますので、ご紹介いたします。

<株式会社常陽産業研究所の杉田次長と廣田主任調査役が挨拶を行った。>

4. 那珂市総合計画策定委員会の会議公開等に関する取決め事項及び那珂市総合計画策定委員会設置規則について

○ 事務局（生田目総括）

・それでは次に移りたいと思います。次第4「那珂市総合計画策定委員会の会議の公開等に関する取決め事項及び那珂市総合計画策定委員会設置規則について」ご説明申し上げます。

○ 事務局（小関課長補佐）

・最初の説明に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

・本日お送りした資料のほかに、お手元には本日配付の「資料1」の差し替え資料がございます。あらかじめ郵送したのではなく、本日お手元にお配りした資料1「那珂市総合計画策定委員会の会議の公開等に関する取決め事項」をご利用ください。そのほか、資料2「設置規則」、資料3「総合計画の概要について」、資料4「策定方針」、資料4-1「年間スケジュール」、資料4-2「地方創生の取り組み」、資料5-1「那珂市の人口について」、資料5-2「市民アンケート結果」、資料5-3「子育て世代アンケート」、資料5-4「若い世代のまちづくり調査」、資料6「基本構想の作成にあたって」が揃っているかご確認ください。また、第2次那珂市総合計画および後期基本計画の冊子を一冊ずつ置かせていただいております。資料の不足はございませんでしょうか。

- ・それでははじめに、資料１に基づき会議の公開等に関する取決め事項をご説明いたします。「１．会議の公開について」ですが、委員会の会議は原則として公開とします。ただし、委員長が必要と認めるときは、会議の一部または全部を非公開とすることができるとしております。２から４では、委員名簿や会議資料、会議録の公開についての取り組みが記載されております。「５．傍聴について」では、会議を傍聴するための方法や禁止事項等を記載しております。裏側は会議傍聴人受付簿となっております。
- ・続きまして、資料２に基づき那珂市総合計画策定委員会設置規則について説明いたします。第１条「設置」では、本委員会は那珂市総合計画を作成するため設置するものである旨を定めています。第２条「構成」では、委員は住民の代表、副市長、各課室の代表などで構成することとしております。第３条「委員長及び副委員長」では、委員長は副市長、副委員長には委員長が委員の中から指名することとなっております。副委員長の２名につきましては、後ほど委員長より指名をしていただきます。第４条「任期」は、総合計画の作成が終了した時までとし、令和１０年３月までを予定しております。第５条「会議」は、委員長が招集することなどを定めております。ただいまの説明につきまして、ご質問等がございましたら挙手をお願いいたします。

○ 先崎委員

- ・資料１について、本日差し替えがありましたが、どの点が変わったのかご説明いただけますか。

○ 事務局（小関課長補佐）

- ・大変失礼いたしました。修正した点は１か所ございます。「４．会議録の公開について」の（１）の中です。あらかじめお送りした資料では「那珂市公文書の開示等に関する条例第６条」と記載しておりましたが、現在は「那珂市情報公開条例第７条」に変わっております。その点を修正いたしました。

○ 先崎委員

- ・了解しました。

○ 事務局（生田目総括）

- ・他にご質問がなければ、協議事項に移りたいと思います。設置規則第５条第１項の規定に基づき、これからの進行は委員長をお願いいたします。

5. 協議事項

(1) 副委員長の指名について

○ 玉川委員長

- ・次第に沿って会議を進めてまいります。まず協議事項(1)「副委員長の指名について」ですが、副委員長は委員長が委員の中から指名することとなっておりますので、私の方から指名させていただきます。まずは芳野地区まちづくり委員会委員長の里口委員、もう一方はフェルミエ那珂会長である綿引委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。恐れ入りますが、お二方は前の席までご移動をお願いいたします。

<里口委員と綿引委員が前方の席に移動した。>

○ 玉川委員長

- ・それでは、次に進みます。協議事項「(2) 総合計画の概要について」から「(4) 市の現状について」まで、関連していますので、一括して事務局および常陽産業研究所からご説明をお願いします。

(2) 総合計画の概要について

○ 事務局(櫛田主幹)

- ・まず初めに、計画の構成についてです。総合計画は一般的に「基本構想」「基本計画」および「実施計画」で構成されています。
- ・現在の第2次那珂市総合計画における「基本構想」は、目指すべき市の将来像を定め、その実現に向けた、まちづくりの基本理念と施策の大綱を明らかにするもので、計画期間を10年間としています。
- ・「基本計画」は、基本構想で示した基本理念と施策の大綱に基づき、根幹となる政策を体系的に示し、施策ごとの取り組み方針を明らかにするものです。近年の社会経済情勢の変化に適確かつ柔軟に対応するため、計画期間を5年間としています。
- ・「実施計画」は、基本計画で定めた施策の方針に基づき、3年間の具体的な事業計画を明らかにするものです。毎年度見直しを行うローリング方式により設定し、実効性の高い計画とします。
- ・本市では、平成30年3月に第2次那珂市総合計画として、平成30年度から令和9年度の10年間を計画期間とする基本構想と、平成30年度から5年間を計画期間とする前期基本計画を策定しました。令和4年には、令和5年度から令和9年度を計画期間とする後期基本計画を策定しました。
- ・現行計画である第2次那珂市総合計画における基本構想について、市の将来像は「人と地域が輝く 安心・安全で住みよいまち 那珂」であります。
- ・この実現に向けたまちづくりの基本理念として、「すべての人が安心して住み続けられる

まちを目指します」、「共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します」、「すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」の3つを設定しました。

- ・そして、その基本理念に基づく施策の大綱として、地域コミュニティの充実や協働のまちづくり、シティプロモーションによる移住定住の促進を行う「みんなで進める住みよいまちづくり」、防災防犯体制や生活基盤の整備、さらには環境へ配慮した持続可能な社会の実現を目指す「安全で快適に暮らせるまちづくり」、個人が希望を持ち、生き生きと暮らすための福祉の充実を目指す「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」、学校教育や生涯学習の充実、文化財の保護や国内外への発信、文化創造を図る「未来を担う人と文化を育むまちづくり」、農業、商工業、観光など産業の振興を図る「活力あふれる交流と賑わいのまちづくり」、効率的かつ効果的な行政運営と健全な財政運営を行い、行政組織の最適化を目指す「行財政改革の推進による自立したまちづくり」を定めました。
- ・続きまして4ページをご覧ください。4ページの最後には基本目標を記載しておりますが、後期基本計画の策定の際には、まちづくりの目標として「住みよきプラス、活力あふれるまち」を掲げました。元々の将来像に「住みよき」と「本市が持つ可能性を活かした活力あるまち」をプラスし、さらにデジタル化へのロードマップを示しました。
- ・これについて5ページをご覧ください。基本構想には、策定にあたっての現状分析と目標設定の指標として、将来人口推計を記載しております。令和4年の後期基本計画策定の際に、令和2年国勢調査の値を反映させたのが5ページの内容であります。
- ・続いて6ページに目を移してください。今回の第3次那珂市総合計画は、令和7年3月に策定した「那珂市デジタル田園都市国家構想総合戦略」の記載内容や那珂市の将来人口をベースに、令和7年国勢調査の確定値を活用し、必要な修正を加えて掲載する予定です。
- ・そして7ページになります。土地利用の効率的・基本的な視点における総合的な調整を図るため、土地利用の指針となる基本的な考え方として「土地利用構想」を示しています。第2次那珂市総合計画では、市街化区域を「住居系」「産業系」「複合系」の3つの分類に、市街化調整区域を「農林の振興」「緑地の保全」などの3つの土地利用の方針に分け、土地利用の方針を示しています。
- ・続いて8ページについて、現行計画の施策の体系について説明させていただきます。現行計画の後期基本計画では、6つの施策の大綱のもと全部で31の政策と89の基本事業を掲げています。ここでは、施策の大綱1「みんなで進める住みよいまちづくり」を一例として、施策の大綱ごとに整理した表を掲載しました。表の左から「政策」「基本事業」「成果指標」「現状値と目標値」となっております。なお、今年度の作業は基本構想の策定になりますので、こちらは参考程度にご覧ください。
- ・続きまして、9ページ「計画の進行管理と行政評価」についてです。総合計画の進行管理は、行政評価システムを計画の施策体系に沿って連動させることにより行います。行政評価システムとは、計画に掲げた施策や基本事業、事務事業ごとに成果指標を設定し、それらの指標を毎年度測定することで、前年度の活動内容を評価し、次年度以降の取り組みに

反映させていく仕組みです。いわゆるPDCAサイクルを回していくことになります。

- ・また、計画の進行管理を行う中で欠かせない事項がもう一つあります。それは、「市民アンケート」による評価です。市民アンケートによる評価は、市が行う様々な取り組みについて市民の満足度を把握するために実施しているところですが、その調査結果は行政評価システムで用いる成果指標の基礎になっております。アンケート結果については、後ほど分析結果をお示しします。
- ・最後の10ページでは、まとめをお話しさせていただきます。ここでは一般論として総合計画とはどのようなものか、そして現行計画である第2次那珂市総合計画の基本構想について説明させていただきました。総合計画とは自治体におけるまちづくりの最上位計画であり、自治体が進める各種政策は、この総合計画に基づいて実施されます。総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画により構成されます。本市では、平成30年3月に第2次那珂市総合計画および前期基本計画を策定、令和4年度に後期基本計画を策定しました。今年度は、令和10年度からの計画である第3次那珂市総合計画のうち、基本構想にあたる内容の検討を行います。基本構想の策定にあたっては、各種アンケートや市民ワークショップで出た市民の意見、庁内ワーキングチームによる施策の振り返り結果を反映させます。策定委員会の主な役割として、のちほど策定方針のところでも説明いたしますが、ワーキングチームにおいて作成されたたたき台の内容検討、ブラッシュアップを行っていただくことです。私からの説明は以上になります。

(3) 策定方針及びスケジュールについて

○ 事務局（小関課長補佐）

- ・続きまして、資料4に基づき「第3次那珂市総合計画策定方針」についてご説明いたします。時間を有効活用する観点から要約して説明させていただきます。
- ・「0 策定の趣旨」から「2 人口減少時代への対応」を要約しますと、人口減少時代になっても持続可能なまちづくりを今後も続けていくため、まちづくりの総合的な計画である「総合計画」と人口減少対策を定めた「総合戦略」を一体的に策定するものとします。
- ・「3 計画策定の視点」は「1 市民主体のまちづくりを進めること」や「2 地域コミュニティの維持を進めていくこと」など5つの視点を考えています。
- ・2ページ目の「4 計画策定の基本方針」は総合計画と総合戦略を一体化させます。
- ・「(2) 基本計画における市が策定している個別の計画や予算との連動」では、市は高齢福祉や障がい福祉などの各分野で専門家を交えた手続きを経て様々な計画を策定し、進行管理もそれらの計画で実施しています。そのような現状を踏まえ、すでに定められている個別計画を総合計画の基本計画に位置づけることで、個別計画や予算との連動を図ります。
- ・「(3) 市民参加の計画づくり」としまして、市民ワークショップ、アンケートなど様々な機会を捉えて、市民意見の把握と、市民と行政の協働の計画づくりをしていきたいと考えております。

- ・「(4) 計画策定の効率化」も踏まえていきたいと思います。
- ・「5 次期総合計画の内容」としては、基本構想、基本計画、実施計画の三層の構成としたいと考えています。
- ・「(1) 基本構想」は市の将来像を定め、目標とする将来像を実現するためのまちづくりの基本理念や施策の大綱を示すものです。令和10年度を初年度として、令和19年度を目標年度とする実質的な計画としているものの、事務局としては現在、基本構想の将来像と、それを実現するための基本理念、施策の大綱を20年とすることを検討します。詳しくは、この後の各項の「基本構想の構成」の部分においてご説明いたします。
- ・「(2) 基本計画」は5か年計画、「(3) 実施計画」は3か年の事業内容を明らかにするものとします。
- ・「(4) 基本構想の構成」のうち、「①市の将来像とまちづくりの基本理念」は人口減少の大きな流れが今後劇的に改善する可能性が少ない中にあっても持続可能なまちとするため、「住みよさ+活力あふれるまち」づくりを進めていきます。この方向性は普遍的なものとして今後も変わらないものであると考えられるため、先ほど申し上げた通り、期間を20年程度にすることを検討しています。
- ・「②将来人口推計」は、総合戦略の人口ビジョンとの一貫化により、簡略に作成したいと考えています。総合戦略の見直しや国勢調査などの各種統計調査の結果を踏まえ、適宜見直しを行う方針です。
- ・「③土地利用構想」も、基本的に第2次総合計画、後期基本計画の方向性を継続するものと考えております。
- ・「④施策の大綱」は現在、6つの大綱、31施策で、総合戦略では4つの戦略、22の施策で構成されているものの、大綱数を総合戦略の基本戦略数まで整理し、その内容も政策横断的なものを中心とした内容とし、期間は20年程度とすることを検討しています。
- ・「⑤基本構想に係る市民の参画」については、先ほど申し上げた通り、各種アンケートなど直近の調査結果を活用していきたいと考えています。
- ・続きまして、4ページの「(4) 基本構想の構成」で先ほど申し上げた通り、実際の簡略化と既存の個別計画との整合性を図ってまいります。
- ・「6 策定体制」は、資料に掲載したイメージ図の通りとなります。役所内体制として、総括課長補佐により組織する「総合計画策定委員会ワーキングチーム」がまず原案を作成し、「本策定委員会」で検討を行って、十分に審議して決定します。決定結果は、結果報告も含めて議会への報告も行う形です。また外部の体制として、右側にございます「総合開発審議会」に総合計画の諮問をし、答申をいただく体制となっております。また右下にある通り、市民からも十分に意見や提案をいただくような体制を敷いております。
- ・「7 策定スケジュール」は資料4-1にスケジュールを掲載しております。令和8年度に基本構想を作成し、令和9年度に基本計画の作成を行う予定です。「市議会への報告」を基準としてスケジュールの管理をしていくことから、12月議会で基本構想の報告を行う

ことが今年度の目標となります。

- ・「策定委員会」のスケジュールは、ワーキングチームから策定委員会、総合計画審議会へと順次、基本構想の作成案を上げていくような流れになっております。この策定委員会は今回の第1回目のほかに、9月、11月の開催を予定しております。
- ・以上が、「第3次那珂市総合計画策定方針」の説明になります。

(4) 市の現状について

○ 株式会社常陽産業研究所 廣田主任調査役

- ・それでは、常陽産業研究所より市の現状について資料5-1から5-4をもとにご説明申し上げます。
- ・まずは資料5-1「那珂市の人口について」をご覧ください。2ページは、国が5年に一度実施している国勢調査の結果を基にした人口の推移です。2020（令和2）年の人口ですが、53,502人と2000（平成12）年と比べて2.85%減少しております。茨城県全体では2000（平成12）年比で3.97%減となっております。那珂市の人口の減少幅は県全体よりも小さく、人口を一定程度維持しています。一方、65歳以上の人口は年々増加しており、2020（令和2）年には総人口の3割を超えています。
- ・続いて3ページです。先月、2025（令和7）年の国勢調査の結果（速報値）が公表されました。2025（令和7）年の人口は51,531人と、5年前の2020（令和2）年と比べて3.7%減となっております。茨城県全体では2.6%減となっておりますので、県の減少幅を上回っているような状況です。今後、2025（令和7）年の国勢調査の詳細な人口結果が順次公表される予定ですので、その内容を含めて総合計画を策定していくということになります。
- ・続いて4ページをご覧ください。令和7年3月に策定した「那珂市デジタル田園都市国家構想総合戦略」では、市の人口の減少や将来展望を分析しまして、将来的な人口ビジョンを定めております。目指すべき将来方向である「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を早期に叶える」、「社会動態における転入超過の維持・増加を図る」、「若い世代の転出を抑制する」を実現することで、合計特殊出生率は2030年に1.80、2040年に2.07まで改善します。その結果として、5ページ目の将来展望人口として、2060年には4万4,000人程度を目指していきます。こちらの人口ビジョンについても、2025年の国勢調査結果の詳細データを踏まえて必要に応じて修正をします。
- ・こうした人口減少が地域に与える影響を6ページ以降でご説明いたします。影響は大きく3つあります。まず1つ目は「地域住民の生活への影響」です。高齢化の進展に伴い医療・介護のニーズが増加する一方、受け皿となる施設が不足したり、地域コミュニティの担い手が不足したりする恐れがあります。また、7ページの通り、長きにわたって人が住んでいない空き家率が上昇することになり、管理不全となった空き家による住環境の悪化なども懸念されます。

- ・続いて8ページでございます。2つ目の影響が地域経済に関する影響です。まず1つ目が、農業従事者の高齢化等に伴い担い手が不足し、農地の荒廃が進行する恐れがあります。また9ページのとおり、人口減少による需要減により、ロードサイド店などが撤退し、買い物環境など生活環境が悪化する可能性があります。
- ・最後に10ページですが、最後（3つ目）の影響は、行政運営への影響です。働き手の減少や就業者数の減少に伴う税収入の減少、あとは高齢化の進展による社会保障費の増加により、財政の硬直化問題や行政サービスの実効性問題が懸念されます。以上で人口に関するご説明とさせていただきます。
- ・続いて、資料5-2「令和7年度市民アンケート分析結果」についてご説明を申し上げます。市民アンケートは那珂市様では毎年実施しており、直近は今年の1月から2月にかけて実施しました。その内容をご説明いたします。まず7ページをご覧ください。7ページは、市民の皆様は那珂市の住みやすさについてお伺いした結果となっております。「住みやすいと思う」と「どちらかといえば住みやすいと思う」の合計を足した「住みやすい」という回答割合は88.5%と、約9割の方が住みやすいと回答しております。
- ・一方で、那珂市の市民サービスに対する満足度は12ページに記載をしております。「市民サービスに満足している」と「どちらかといえば満足している」を足した「満足している」という回答割合は74.1%となっております。「住みやすい」という回答割合の88.5%と比べると約14ポイント低くなっており、住みやすさの要因として、自然環境など市民サービス以外の要素が貢献しているとみられます。
- ・続いて17ページをご覧ください。市民の皆様は那珂市の取り組みに対する重要度と満足度を聞いた結果となっております。17ページの図の左上に該当するものが、満足度が低く優先度が高いと認識している最優先に取り組むべき課題です。結果をみると、子育て環境や医療・健康環境、高齢者や障害者環境といった医療・福祉環境や、道路整備などの生活基盤、交通の利便性が最優先に取り組むべき課題となっております。加えて、年代別では、40代以下は学校・教育が、50代以上（～64歳）では「防災・防犯・交通安全の対策」が最優先に取り組むべき課題に挙がっています。こういった結果を踏まえて、総合計画の策定を行ってまいります。
- ・続いて、資料5-3「子育て世代の働き方や生活に関するアンケート」です。こちらは令和7年3月に策定した総合戦略の策定の一環で実施したアンケートです。7ページをご覧ください。那珂市の住みやすさについて、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」という回答が75.3%となっており、市民アンケートの結果と同様、7割以上の方が住みやすいと回答していらっしゃいます。続いて8ページの住みやすい理由は、「市内または近隣市町村に勤務地がある」や「買い物に便利である」が多くなっております。
- ・一方で住みにくいと回答した方の理由は、9ページにあるように「子育て支援が不十分である」が83.2%と最多という結果となっております。また、このアンケートでは自由回答も市民の皆様からお伺いしており、その結果は15ページに取りまとめております。

自由回答分析の内容としましては、「子供の遊び場が足りない」や「小児科など医療機関が少ない」という不安、「子育て環境が近隣市町村に比べて充実していない」というような声があり、こうした子育て世代のご意見も踏まえて計画を作成してまいりたいと思います。

・最後の資料５－４は、県央地域連携中枢都市圏、県央地域に住む高校生に実施したアンケート結果となっております。これについては資料の９ページをご覧ください。９ページは、今住んでいる市町村に対して愛着があるかどうかを確認しております。那珂市在住の高校生では、「愛着がある」が４割となっており、那珂市以外と比べると高いという結果となっております。愛着が一般的に定住に大きな影響を与える要因ですので、こういった部分については良いところといえます。一方、１０ページの今住んでいる市町村にあてはまるものとして、「勉強、読書、自分の趣味に集中できる場所がある」が、那珂市の高校生は那珂市以外と比べると割合が高く、自分の趣味等に集中できる場所があると感じています。このような高校生の状況も踏まえて、今後の策定支援等を行っていきたいと考えております。那珂市の現状についての説明は以上となります。

○ 玉川委員長

・ありがとうございます。事務局および常陽産業研究所からの説明に対し、ご質問やご意見があればお願いしたいと思います。まずは資料４「策定方針」や総合計画・総合戦略の関係についていかがでしょうか。

<質疑応答：「策定方針」や総合計画・総合戦略の関係について>

○ 山下委員

・ご説明ありがとうございます。資料４の２ページにある「総合計画と総合戦略の一体化」について質問です。これらは今後も２つ別々に存在していくのか、それとも１つにまとめるのでしょうか。すでに令和７年度に策定された総合戦略の考え方を、今回の総合計画の基本計画の中に組み込んでしまうということでしょうか。

○ 事務局（小関課長補佐）

・総合戦略は「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて作成するもので、法定の計画として今後も独立して存在し続けます。一方、総合計画は法定計画ではない部分もございます。一体的策定というのは、総合計画を作成するにあたり、将来人口推計やその基本的な考え方について、総合戦略で定めているものをそのまま整合性を持たせて「取り込んでいく（包含する）」という形を考えております。

○ 山下委員

・理解できました。そうすると、我々も総合戦略の方をある程度勉強して把握しておいた方が良いということでしょうか。

○ 事務局（加藤企画部長）

・総合戦略は人口減少に特化してどのような戦略を打つかを示したものであり、総合計画は市の全般的な計画として総合戦略の内容も網羅する形で策定します。方向性は全く一緒ですので、総合計画の議論を進めていただければ総合戦略の内容もカバーできるようになっています。ただ、相反する内容になってはいけませんので、できれば総合戦略も読み解いていただければ幸いです。

○ 山下委員

・総合戦略は市のホームページから見られるようになっていませんか。

○ 事務局（小関課長補佐）

・総合戦略は市のホームページに掲載しているほか、本日の資料4の6ページに掲載しているQRコードからも確認できます。

○ 山下委員

・ありがとうございました。

○ 玉川委員長

・ちなみに、私は元県職員なのですが、茨城県の場合は総合計画と総合戦略を完全に一本化し、一冊の計画として整理しています。多くの自治体では、地方創生交付金をもらうために総合戦略を別途作る必要があったという背景があります。那珂市においても部長がおっしゃったように、中身としてはかなり同じ趣旨で作成されていますので、別々に深く悩まなくても総合計画の議論を進めることで対応できるものと理解しております。

<質疑応答：「策定方針」や総合計画・総合戦略の関係について>

○ 玉川委員長

・ありがとうございます。その他、人口やアンケート結果（資料5-1～5-4）に関して質問やご意見はございますか。

○ 根本委員

・人口減少の影響についてまとめられていますが、現在的那珂市の人口における「年齢構成」について、さらに深く分析した資料はありますか。現役で仕事をされている方や、仕事を離れて年金生活をされている方、少しだけ働きながら過ごされている方などの分類についてです。仕事を離れた高齢者世代が、再度仕事に就いて活性化された毎日を送れるような社会がこれからは必要ではないかと考えており、そうした年齢ごとの現状を意識したデータをお持ちかお聞きしたいです。

○ 事務局（小関課長補佐）

・資料５－１の２ページ目に人口推移のグラフがございます。２０２０年のデータになりますが、総人口５３，５０２人のうち、生産年齢人口（１５～６４歳）が２９，６９４人、老年人口（６５歳以上）が１７，１９４人、年少人口（０～１４歳）が６，２９４人という構成になっております。

○ 根本委員

・数値としては分かりますが、現実には今、６５歳を過ぎても働いている方がたくさんいらっしゃいます。これまでの現役時代に培った経験や知識を活かして社会に貢献したいと思っている人たちが、一定の年齢で退職を余儀なくされたり、従来の仕事が終わってしまったりにしています。そうした人材を総合計画の中で活用できるような場を作れないかと考えているのですが、市としての取り組みや考え方はありますでしょうか。例えば「６５歳以上の就業比率」などの資料があれば、今後検討していきたいと思います。

○ 事務局（小関課長補佐）

・貴重なご意見をありがとうございます。本日は基本構想の段階ですので具体的な施策までは掲載しておりませんが、高齢になっても健康に生活し、活躍できる場を設けるということは非常に重要だと考えております。就業率などのデータも含め、今後の具体的な計画策定の中でしっかりと検討していきたいと思います。

○ 山下委員

・資料５－２の市民アンケートに関連して質問と要望です。各計画や施策がこれまでの１０年間で本当に上手くいっているのか、悪くなっていないかという進捗に興味があります。後期基本計画には、令和９年度に向けた成果指標の目標値が出されていますが、今回の市民アンケートの結果と照らし合わせて、実際の進捗や達成度が分かるような資料は別途あるのでしょうか。

○ 事務局（小関課長補佐）

・現在、手元に直接対比できる資料は用意しておりませんが、次回の基本構想の議論に向けて、現行の第２次総合計画の進捗評価・総括を行う予定です。現在、庁内で作業を進めており、これまでの成果指標に対する実際の数値を整理して皆様にお示しいたします。また、毎年実施している「施策評価」の中でも進捗を計っております。

○ 山下委員

・ありがとうございます、資料を楽しみに待っています。要望として、市民アンケートの結

果については、単年度のデータだけではなく、過去からの経年変化（トレンド）が分かる情報があると、良い方向に進んでいるのか、あるいは横ばいなのか、悪化しているのかが判断しやすいため、そうした経年変化の情報もあわせて提供していただけるとありがたいです。

○ 事務局（小関グループ長）

- ・ありがとうございました。実績や経年変化のデータにつきましては整理の上、次回の委員会にて報告させていただきます。

（５）基本構想の策定にあたって

○ 玉川副市長

- ・それでは、本日のメインテーマとなります協議事項（５）「基本構想の策定にあたって」について、事務局より説明をいたします。

○ 事務局（小関課長補佐）

- ・資料６「第３次那珂市総合計画 基本構想の策定にあたって」をご覧ください。
- ・先ほどまでの協議事項では、総合計画全体の策定方針や各種アンケート結果を概観しました。ここからは、第３次総合計画の基本構想を策定するにあたり、その方向性について委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。
- ・スケジュールの説明の通り、１２月の議会報告を一つの目標として、総合計画のうち基本構想の策定を進めてまいります。現行計画を基準にすると、基本構想は「将来像」、「将来人口推計」、「土地利用構想」、「施策の大綱」の４つの項目で構成されています。９月に予定される次回の策定委員会においては、将来像と現行計画の評価、それらを踏まえた施策の大綱などを含めた「基本構想骨子案」をお示しする予定です。
- ・そのうち「将来像」につきましては、総合計画全体の思想的な基盤となる部分ですので、早い段階から皆様の意見を頂戴して案を作っていくと考えております。将来像に関するご意見は、この場に限らず、次第の右下に記載した事務局連絡先までメール等でお寄せいただくことも可能です。案とその理由などについてご意見をいただければと考えております。
- ・資料６の基本構想の方向性についてです。那珂市の特徴として、住民の世代や属性、土地利用状況など多くの多様性に富んでいることがあります。また、人口は自然減と社会増の狭間で全体では減少傾向にあります。
- ・目指す姿は立場を超えた連携によって、多様性を強みに変えるまち、人口減少下にあっても持続可能な発展を続けられるまちになることです。それを実現するためのキーワードとして「融合（フュージョン）」を掲げました。
- ・３ページ目をご覧ください。将来像の検討のキーワードとして以下の例を考えてみまし

た。

- ・「住みよさ」は言わずもがなの本市の特徴であり、目標です。「ハート（ぬくもり・心・志）」は心温まる人に優しいイメージで、那珂市の地形を模式的に表現した形です。「ひまわり・太陽」は、地上の太陽と称される核融合発電などをはじめとする先進科学を象徴しています。「融合（フュージョン）」は那珂市の多様性や特徴を緩く結びつける言葉として考えております。「人」は、A I の時代になっても人と人のつながりを大切にする事。「活力」は農業などの産業を振興し、人々の集う場所へ「にぎわい」を作ること。「つながり、連携」は那珂市の多様性から「つながり、連携」によりこれまでになかった価値を生み出すことができること。「羽を休める場所、帰る場所」は水戸市やひたちなか市で働いている人たちも那珂市に帰ってきて安らぎを得る場所、あるいは、一度外に出た方がやがて帰る場所ということです。「歴史」は、あまり知られていないかもしれませんが、幕末の憂国の士や近代日本の発展に貢献した方を輩出しているほか、南北朝の動乱にも登場する遺構を有します。歴史の豊かさは決して他の地域に引けを取らないと考えています。
- ・これらはほんの一例に過ぎないと思います。これらに限らず、那珂市の将来像を皆さまに考えていただきたいと思います。
- ・将来人口推計と次ページの土地利用構想は、策定方針においてご説明したとおりです。
- ・また、行財政改革は、現行計画では基本計画の第6章に施策の一部として位置づけていましたが、第3次計画では「すべての施策の前提」として位置づけることを検討しています。
- ・施策の大綱は、現行第2次計画は6つの大綱で構成されているものの、第3次計画では、「人」と「住みよさ」、「にぎわい」をベースとした3～4つの施策横断的な大綱へと再編したいと考えております。先ほど説明した通り、現在の第2次計画の評価総括は必要となりますので、それらを踏まえた上での大綱を、次回以降の会議において委員の皆様にお示ししたいと考えております。説明は以上です。

○ 玉川委員長

- ・委員の皆さまから、将来像やこれからの那珂市のあり方について、ぜひ広くご意見をいただきたいと思います。

○ 戸祭委員

- ・市長の挨拶の中で「A I の時代」という言葉がありました。生成A I の登場など非常に社会が変化してきていると感じています。第3次総合計画においては、A I の活用に対する考え方や、市役所におけるA I インフラの整備についてどのように考えているのか教えてください。

○ 事務局（小関課長補佐）

- ・A I に限らず、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進は、これまでも市役所

の施策として進めてきたところです。次期計画においても、その要素は重要な前提としてしっかりと加味していきたいと考えております。

○ 玉川委員長

・将来に向けて、こういう市であってほしいというような意見であるとか、今すぐにどこからと決まること（具体的な施策）でもない部分もあると思うのですが、どのようなことでも結構ですので、ご意見がありましたらお願いします。せっかくの第1回目の会議ですので、お一人お一人に何かご意見やご要望を頂きたいと思います。それでは、寺門委員からよろしくお願いします。

○ 寺門委員

・人口減少時代における地域活性化の戦略は重要です。私がつくづく考えているのは高齢者の活躍についてです。私の住む菅谷地区などは都市化が進み、外から移り住んできた方が多い人口構成となっています。

・従来は65歳を過ぎると退職して家にいることが多かったのですが、今は働き口がないものの、70歳を過ぎても働く意欲や能力がある方がたくさんいます。実際に地域のボランティア等にシフトしている方もいますが、一方で、まだ十分に外に出ず、能力があるにもかかわらず家の中にじっとしている方も多く、非常にもったいないと感じています。人口減少だからこそ、こうした元気なシニア人材をいかに社会に取り込み、地域づくりに貢献してもらうかという視点が、今後の将来像として非常に重要になるのではないかと考えております。

○ 根本委員

・我々としては道の駅の計画をまちづくりとして成功させ、地域や農業にしっかりと利益が出るような組織にしたいという強い思いを持っています。

・私は本日ここへ来る前に、道の駅整備課を訪問し、整備事業について話を聞いてきました。そこで「現在、那珂市の農業専従者の方々と、どのような調整や作物の作り込みに関する話し合いが行われているか」を道の駅整備課に尋ねたところ、現在はアンケートをとっている段階であり、具体的にどのような作物をどれだけ生産・出荷してもらうかといった実質的な話し合いはこれからで、令和10年度に行われるとのことでした。2年後のオープンに向けてもう少しピッチを上げて取り組む必要があると感じました。この道の駅計画は10年、20年と将来の世代にも影響があるわけですから、利益が市内全体に循環するよう、この総合計画の中でも明確な指針が示されることを願っております。

○ 勝山委員

・木崎地区には非常に広大な田園があります。土地はあるのですけれども、子どもたちは帰

ってこないのです。全員がひたちなか市や水戸市に家を建ててしまっています。

- ・多くの方が「ひたちなか市の方が住みやすい」などと言いますが、なぜ帰ってこないのでしょうかね。皆さんどう思われますか。
- ・本気になれば（家を建てる場所は）どこにでもあります。しかし、子どもさんがいる親御さんはみんな（実家の土地を）あげたくても、「どうしよう、もう私たちが死んだらどうなってしまうのだろう」と頭を悩ませている人がいます。
- ・それでも、私たちとしては、基本的には自分が住んでよかった、住みたくなるまちを目標としたいです。そして、人口減少の中で少しでも人が那珂市に住んで、今から10年後、20年後に、「額田地区や木崎地区も捨てたものじゃない」といわれるようにしたいと思います。今の段階では考えがまとまっていないのですが、皆さんのその素晴らしいアイデアを出し合って、どんな厳しい状況の中でも、家を建て、おじいちゃん、おばあちゃん、孫と、そんな風と一緒に暮らせるまちにしたいと思います。

○ 先崎委員

- ・キーワードに「活力」という言葉が出てきましたが、「活力とは一体何なのか」ということを私たちはもっと真剣に考えるべきです。「活力」は単に「にぎわい」だけではないと感じています。これから委員会の中で積極的に意見を申し上げていきたいと考えております。

○ 中庭委員

- ・65歳以上の高齢者の活力を創出することに関連して、那珂市には工業団地があり、まだ活用できる土地も残っています。ぜひ積極的に企業誘致を進めていただき、新たな雇用を生み出していきたいです。
- ・それと同時に、先ほどの人口データをみると、15歳未満の若い世代が減少しており、一番危惧すべき状況だと感じています。なぜなら、若い世代が減れば将来の税収が先細りしてしまうからです。そこを一番の焦点として、子育て世代や若い人が住みやすい、移住・定住してくれるような計画が必要です。何十年後かの那珂市が心配になってしまいますので、そこを大事に考えていきたいです。

○ 横内委員

- ・住みよさを重視して人を集める前提として、やはり農業も商業も含めた「働く場所（雇用の受け皿）の確保」が前提になると考えます。その一方で、本市では起業する人が少ないですし、既存の事業者様においても、経営者が高齢化しているにもかかわらず事業承継（跡継ぎ）が進んでいないという課題があります。こうした産業の足腰を強くする取り組みを重点的に実施していくべきだと考えます。
- ・もう一点は、将来像のキーワードについてですが、那珂市は「住みやすいけれど、どこか地味だ」というイメージを持たれがちです。近隣の市町村に比べて埋没しないよう、将来

像の検討にあたっては、何かしら「エッジの効いた（特徴的な）」キーワードを盛り込むのも手ではないかと感じております。

○ 山田（日）委員

- ・私たちは選ばれる保育園になれるように日々努力しています。菅谷地区には新しい住宅が多く建っているような印象がすごくあります。人口減少と言われているこの那珂市であるものの、やはり私としては非常に住みやすい場所だなと思っています。那珂インターチェンジが近く、水戸市やひたちなか市も近いです。
- ・私たちは五台地区にも事業所を持っていますが、五台地区は農地転用が難しく、新しい住宅を建てるのが難しい地区という印象を持っています。土地はたくさんあるのだから住宅が建てられるようになれば、人口増加につながるのではないかなと思っています。
- ・子育て・教育の連携として、那珂市の子どもは那珂市で育てるということを教育委員会も頑張っております。学校教育の方々もとてもきめ細かく、取りこぼしのないような教育を行っております。そのため、ぜひ良いまちづくりにお役に立てればと思っています。
- ・また、元気なお年寄りが活躍できる場所があると良いのかなと思っています。私たちは学童も行っていますが、元気なお年寄りがいたら、ボランティアで昔遊びを教えてもらったりすることなどを気軽にできると良いなと思います。しかし、そのようなマッチングができないのが現状です。多分お互いにもどかしい思いをしているのかもしれないのかなと、感じました。

○ 後藤委員

- ・私は菅谷地区に住んでおりますが、周辺に新しいお家が次々と建っているため、人口減少と聞いた時に「こんなに家が建っているのに本当に人口が減っているの」と最初は不思議に思いました。しかし、勝山委員からお話があった通り、地域によって大きな格差があるのだと実感しています。それでも、これだけ新しい家が建ち、外から若い世代が入ってきていることは那珂市の魅力の証拠だと思います。
- ・私は消防団に所属しておりますが、以前は、各幼稚園や保育園の夏祭りで、おじいちゃん、おばあちゃん、親、子どもたちの三世代が集まり、私たちも花火指導などを通じて非常に賑やかな交流がありました。コロナ禍以降、そうしたお祭りや地域行事がなくなってしまい、寂しさを感じるとともに、地域のつながりが薄れている危機感があります。幼少期からの「幼児防災教育」は非常に大切ですので、今後も子どもたちに「自分の命は自分で守る」ことを伝える活動を積極的に実施していきたい。
- ・また、近隣の水戸市や東海村、常陸太田市などに比べて、子育てや各種助成金が那珂市は少ないという声を市民からよく聞きます。財政状況などの理由も含め、他市との違いや出せない理由をきちんと市民に情報開示してほしいと思います。

○ 小森委員

- ・資料6の最後にあった「人」、「住みよさ」、「にぎわい」というキーワードがとても良いと思いました。私も高齢者の仲間入りをしていますが、周囲からは「那珂市は静かで本当に住みやすい」という声が多いですし、子育て世代からも環境が良いと評判です。ただ、私としては「住みよさ」の先にある「賑わい」がもう少し欲しいと感じています。
- ・先日、栃木県の佐野市へ行く機会があったのですが、佐野厄除け大師を中心に多くの観光客を呼び込み、新しい道の駅もできていて、まち全体に活気と賑わいがありました。騒々しいわけではなく、心地よい活気があり、那珂市もあのようなまちになれば良いなと羨ましく思いました。賑わいというのは住民が自ら作り出すものですので、那珂市が活気ある賑やかなまちになるよう、皆様と協力していきたいです。

○ 小豆畑委員

- ・3月に新しい病院が完成いたしましたし、受け入れを始めております。ようやく少し落ち着いてきたところで、建物は新しくなりましたが、これから中身を充実させていくのはそういったところが大事になるため、頑張っていきたいと思っております。理事長は、この地域で就職したいと思っているような病院になっていきたいという考え方を持っており、その方向に向けて努力していかなければいけないと考えています。それぞれの事業所を運営していく中で、学生などが就職したりすることが重要です。そのためにはお客様や関係者との協力なども必要ですし、必要な取り組みがたくさんあると思っております。今後は、皆様とともに、地域や患者様の目線に立った取り組みをやっていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○ 海野（寿）委員

- ・私は20年ほど前に那珂市の方に移住してきました。各地を随分歩いたのですが、最初は一番田舎かなと思いつつも、今は「住めば都」だということで、この街を選択して住んでおります。ただ、私は那珂市にはもっともっと発掘するものがたくさんあるのではないかなと思っています。あちこちで色々な取り組みをやっていますが、それらが一つにまとまっていないので、あまり目立たなかったり、それから報道や情報があまり入ってこなかったりというようなこともたくさんあるのではないかなと思っています。
- ・先日、「二十歳の集い」に出席させていただきました。出席しているのはみんな若い世代です。やはり、子どもや若者に関する政策の推進をすごく重要視すれば一番良いのではないかなと思います。大きくなってから、今回のように「二十歳の集い」だといって一瞬集まって、その場を楽しんで、また市外へ帰ってしまいます。そういうことではなく、故郷をもっともっと大切にするような施策をお願いしたいです。そのためにはやはり、先ほどからお金の問題が出ていますが、特別な支援を実施していただければ一番嬉しいのではないかなと思います。活力があるまちにするためには、資金（若者への財政支援）が一番で

す。東海村の方にお聞きしましたが、東海村は、小さい頃からの支援金（子育て手当等）を支給したり、若者会議のような場を設けたりしているそうです。そういう事例を少し参考にいただきまして、取り組んでいただければと思います。

- ・本日は常磐大学の学生の皆さんから良い意見が出ていますが、彼ら彼女たちのような活力のある若い方たちや、市内の水戸農業高校や那珂高校などの若い方たちに活動の場を与えていただければ良いと思うのです。そのため、那珂市でも「若者会議」のようなものを設置してはどうかと提案させていただきます。

○ 平野委員

- ・私自身、5人の子どもを育てる現役の母親であり、10年前に那珂市の移住促進PR（「いい那珂暮らし」のYouTube等）で取材を受けた第1号の家族でもあります。私は勝田市（現ひたちなか市）出身ですが、那珂市は実際に住んでみて本当に子育てがしやすいですし、顔が見える温かい関係性が魅力です。しかし現実には、ママ友たちは家を建てるなら地域的な環境は変わらないのに東海村などに出て行ってしまいます。安心して子どもを育てたいという若い方々の思いを射止めるためには、やはり金銭的支援や精神的な支援の両輪が大事になるのではないでしょうか。
- ・また、子ども会や自治会、自主サークルにも入っていますが、新規加入より脱退される方の方が圧倒的に多く、地域のコミュニティが急速に崩壊していくのを目の当たりにしています。数年後には子ども会が消滅してしまうのではないかと悲観的になることもあります。個々の住民にフォーカスすると、人とのつながりを求めている元気な方はたくさんいます。今日の資料にもありましたけれども、第3次計画の大綱「人・住みよさ・にぎわい」というキーワードにうまく結びつくことができれば達成できるのではないかと期待しています。
- ・那珂市の売りはやはり「自然の豊かさ」で、人工物は十分だと思います。子育て中の方々にとって、本当にその価値はとても大きくて、自然体験と、住民の人とのつながりを上手に表に出していければ良いと思います。一の関ため池親水公園やホテル鑑賞会、茨城県植物園など、自然が豊かなところが多くあります。しかし、「自然がある」というだけではなく、人が関わってその資源を大切にしていき、「子どもたち、遊びにおいで」という環境が市全体に広がれば、東京などから「自然豊かな環境だから子どもを育てたい」という方々を呼び込めると思っています。大変楽しみにしております。

○ 山下委員

- ・このような場に参加させていただき、とてもワクワクしています。まず、この委員会自体が楽しく、和気あいあいと盛り上がらないと、きっと良い計画は生まれないと思いますので、みんなで楽しむことを大切にしたいです。
- ・特に、将来像の検討は最も楽しい部分です。最終的にはきれいなスローガンにまとまるの

でしょうが、当たり前すぎる言葉では読んでいてワクワクしません。将来のビジョンとして、例えば、「那珂市は1家庭に車1台あれば、どこにでも不自由なく行ける街にする」や、「市内全域に超高速Wi-Fiが通っていて、どこの家庭でもテレビ1つで行政手続きやビデオ通話、災害情報の取得が完結する」、「一人暮らしの高齢者になっても、毎日誰かが遊びに來たり出かけたりする場所が必ずあって、一人でも毎日が楽しい街」など、具体的にワクワクする未来像をたくさん書き出して、楽しみながら将来像を検討していきたいと思っております。

○ 瀧本委員

- ・大きな規模の会議で非常に緊張し、責任の重さを感じておりましたが、山下委員の「ワクワクしよう」という言葉を聞いて少し安心いたしました。
- ・私の住む瓜連地区の人口減少は極端に深刻化しており、今年、瓜連小学校の新1年生が初めて「1クラス」になってしまいました。これまでは複数クラスあったものが1クラスになり、地域住民全員が人口減少を肌で感じてショックを受けています。子ども会の存続危機など、地域コミュニティの減少を目の当たりにしています。
- ・資料5-3の子育て世帯へのアンケート結果で引っかかったのは、住みやすさを感じている人が約75%いる一方で、住みにくいと答えた人約25%の住みにくい理由をみると「子育て支援が不十分」が83.2%となっている点です。医療機関の誘致や交通インフラの整備、公共施設の充実などは規模が大きすぎてすぐに改善するのは難しいですが、子育て支援の充実や金銭的なサポートであれば、行政の裁量で比較的速やかに改善できるポイントではないかと思います。実際に、周囲でも「常陸太田市や東海村の支援是那珂市よりも手厚いため、常陸太田市や東海村で家を建てる」という若い世代の話をよく耳にします。水戸市やひたちなか市で働いていても那珂市に戻ってきてもらうためには、誰の目にも明らかな子育て支援の充実が必要です。我が家にも結婚前の息子が2人おりますが、なんとかこの那珂市に住み続けてほしいという願いを込めて、皆様の意見を伺いながら取り組んでいきたいです。

○ 大須賀委員

- ・学生視点での気づきとして、那珂市外から通う学生が瓜連駅などの駅を利用した際、「Suica（交通系ICカード）が使えない」ということを知らずに困惑するケースがあります。こうした小さな交通利便性の改善も、若い世代を呼び込むためには必要ではないかと感じました。また、茨城県はやはり車社会ですので車がないと移動が大変ですが、逆に「歩いて楽しめる場所」が街の中に整備されると、車を持たない学生や若い世代、あるいは高齢者にとっても魅力的な街になるのではないかと思います。

○ 小島委員

- ・私は鉾田市出身なのですが、那珂市の総合計画策定に携わる機会をいただき、とても貴重な経験になると考えています。まだ把握しきれていない部分が多くあるのですが、外の者からみた客観的な視点から、今回の策定に携わっていただければ良いと思います。
- ・先ほどから周りの市との子育て支援の比較についての意見が多く述べられていたと思うのですが、やはり近隣自治体と比べられてしまうことが多いと感じます。那珂市の魅力は他にもいっぱいあると思うのですが、その分かりやすい比べ方をされてしまう部分を政策として改善していくことができれば、人口なども増えていくのではないかと思います。

○ 武田委員

- ・那珂市に人が住むためには、まず「那珂市を知るきっかけ」が必要だと思います。那珂市がどのような素晴らしい支援や施策を行っているのかを、どのように周知させるかが大切です。大学のゼミの先生も指摘していましたが、大学と連携してアンケート調査や意見交換会を定期的実施し、市民だけでなく「市民以外のニーズ」も広く把握することが、人口減少の抑制や関係人口の拡大につながるのではないかと思います。先日、茨城県議会の議員の方々と「茨城県にどうすれば住み続けたいか」というテーマで意見交換会をしたのですが、非常に活発で実りのある会となりました。ぜひ、この第3次総合計画を決めていく上でも、大学と密に連携し、私たち大学生の視点や力を活用していただきたいと思っています。

○ 森田委員

- ・私は城里町出身です。委員会に今回参加することになり、初めて那珂市のことを深く調べました。その際、那珂市の公式Y o u T u b eチャンネルで「サイクリングコース」の動画を拝見し、非常に魅力的なまちだなと感じました。
- ・那珂市の人口を増やすためには、まず他の市町村の人に知ってもらうことが重要です。今は「調べれば情報が出てくる」状態ですが、本来は「調べなくても自然と目に入ってくる環境」が理想です。Y o u T u b eだけでなく、T i k T o kやI n s t a g r a mなどのSNSをさらに活用し、若い世代がタイムラインを見ているだけで、勝手に那珂市の魅力的な情報が流れてくるような環境を作れば、もっと多くの人に知ってもらえるのではないかと思います。

○ 綿引委員

- ・私は那珂市で農業を営んでおります。もともとは個人経営の農家だったのですが、このまま個人の規模でバラバラに農業を続けていくのは、これからの時代には非常に厳しくなっていくだろうと危機感を持っていました。そこで一歩前に進むため、現在は農業を「法人化」し、様々な活動を展開しております。

- ・那珂市の農業は従事者の高齢化や担い手不足など、暗い話ばかりが耳に入りますが、組織化することでできることはたくさんあります。私の法人では、地域の先輩である60代・70代の方々を何人もパートとして雇用しています。法人化してきちんとお給料をもらう形にしたことで、経営が安定し、雇用の場も作れるようになりました。那珂市でも、このように農業を組織化・企業化して、若い人たちがしっかりと対価（利益）を得られる仕組みを増やしていかなければ、担い手は育ちません。
- ・現在、周りでは耕作放棄地が増え、山林や里山が荒れてしまっています。農家だからといって何でも自分たちだけでやろうとするのではなく、外部のITや経営の得意な人間の力を借りるべきだと感じています。実は今、私のところで一人、研修生を預かっています。彼は那珂市に住み、前職で野菜の流通に関わる仕事をしていました。将来的には彼に流通やマーケティングの分野を担ってもらい、彼のITに強い仲間なども巻き込んで、新しい農業の形を作りたいと毎日汗を流しています。こうした意欲ある研修生へのサポートは、現在も市役所の方に大変お世話になっておりますが、今後もさらにこうした「人を呼び込み、関係者を増やす仕組み」への支援を強化していただければ、那珂市の農業の未来も少しずつ変えられるのではないかと考えております。

○ 里口委員

- ・私の生まれは北海道で、就職を機に那珂市に参りました。62歳で定年退職した後は、地域の神社の氏子総代会長を4年務め、その後、自治会の防災環境部会部会長、自治会長を経て、現在は那珂市芳野地区まちづくり委員会の委員長を務めています。
- ・本日、皆様のお話を伺いながら、私から市役所へお願いしたいのは「休耕地（耕作放棄地）と空き家」の問題についてです。私の実家は北海道の農家で、父親は北海道で6番目に多くの乳牛を飼っていたので、私自身も農業や土地への思い入れが深くあります。那珂市を見渡すと、休耕地が非常にたくさんあります。また、10年ほど前、行政でも空き家問題が取り上げられました。調べたところ、空き家を解体しようとする200万円以上の費用がかかるそうです。現在も結局そのまま放置されている空き家が目立ちます。
- ・役所や新しい病院の周辺には立派な新しい家が多く建てられている一方で、少し離れると草が生い茂った空き地が広がっています。これから乾燥する秋になると、管理されていない草むらから火災などが発生すれば、周辺の住民にとっても大変な危険となります。人口減少だからこそ、こうした市内の休耕地や管理不全な空き家に対して行政として明確な方針を示し、一歩踏み出した対策を講じていただきたいと考えております。

○ 玉川委員長

- ・ありがとうございます。委員の皆様から貴重なご意見を頂戴いたしました。まちの賑わいづくりについてのお話や人材について、あるいはシニア世代のご活躍やご活用といった

点についての本日のご発言は、しっかりと担当者の方で持ち帰りまして、これからの計画に向けて検討していきたいと思います。

・まだまだお話し足りない点もあるかと思いますが、資料に記載されている事務局のメールアドレス宛てに、いつでもご意見をお寄せいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

・それでは、以上をもちまして、本日の協議事項を終了とさせていただきます。次回は、本日いただいた意見を踏まえた「基本構想の素案」についてご検討いただく予定です。皆様から忌憚ないご意見を賜りながら、素晴らしい那珂市の計画を作っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

6. その他

○ 事務局（生田目総括）

・委員長、ありがとうございました。長時間にわたり、慎重なご審議をいただき誠にありがとうございました。最後に次第6「その他」として、事務局から2点ほど連絡事項がございます。

・1つ目は、今後の策定委員会における資料の事前送付や会議開催のご案内についてです。今後の迅速な連絡とペーパーレス化等の観点から、可能な限り電子メールを活用して連絡をさせていただきたいと考えております。お手数ではございますが、お配りしておりますお手元の用紙にメールアドレスをご記入の上、お帰りの際に受付へご提出をお願いいたします。すでにメールでのやり取り実績があり、送付先の変更を希望されない方につきましては、提出は不要でございます。

・2つ目でございますが、先ほどのスケジュール(資料4-1)の説明にもありました通り、第2回の策定委員会は9月の開催を予定しております。日時や場所等の詳細が決まり次第、改めまして皆様にご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

7. 閉会

○ 事務局（生田目総括）

・それでは、以上をもちまして「令和8年度 第1回 那珂市総合計画策定委員会」を終了いたします。本日は大変お疲れ様でした。

以上